

令和3年度 後志教育研修センター事業推進の基本構想

I 運営の基本方針

1 目的

後志教育研修センターは、後志管内20市町村が管内教職員並びに社会教育指導者等の資質・能力の育成に役立つ研修講座事業と管内教育の充実・振興に必要な調査研究事業を協働で実施することを目的とする。

2 運営の方針

- (1) 【研修講座事業】 実践に生きる研修講座事業の改善・充実に努め、指導力の向上を図る。
- (2) 【調査研究事業】 教育課題の解決を目指す調査研究事業に努め、その成果を提供する。
- (3) 【教育情報のセンター的役割】 教育情報の収集・提供に努め、情報のセンター的役割を果たす。

3 運営の重点

- (1) 次代を担う子供たちの将来を見据え、中央の教育動向や教職員等のニーズを的確に捉え、それらに応え得る研修講座を設定し、管内教職員の実践力の向上と学校力の向上に努める。
- (2) 今日的教育課題の解明を図る調査研究事業を推進し、実践に生きる研究資料を提供するとともに、検証授業等を通して管内教職員の資質・能力の向上と学校力の向上に努める。
- (3) 中央の動向に注視し、管内各町村の研究集録等の収集を図り、教育情報のセンター的役割を担い、各学校に必要な研究資料を提供できるように努める。
- (4) 管内小中学校及び教育機関団体と緊密な連携を図り、管内教育の向上に努める。
- (5) 新型コロナウイルス感染症対策の観点から、研修講座は基本的には集合研修とするが、状況に応じてオンライン研修も取り入れていく。調査研究も同様とする。

II 研修事業・調査研究事業

1 研修講座事業

(1) 研修講座開設に向けて

次代を担う子どもが感性を豊かに働かせながらより良い人生を築いていくために、自ら学び、自ら考えることに加え、他者と共生・協働し、知恵を持ち寄り、未来を切り拓く力が強く必要とされている。

昨年度は小学校において、本年度は中学校で全面実施された新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の下、改訂の大きなテーマである「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していく。「何を知っているか」から「どのように問題解決を成し遂げていくか」を支える資質・能力を育成する学びの質的転換を目指した講座内容とする。

小規模校が半数を占める北海道・後志の地域性や新採用教職員の大量採用という時代の流れから、当研修センターの研修講座事業は人材育成という観点から重要な役割を担っている。学校教育講座においては、学校経営・学級経営や教科指導、特別支援教育の在り方、ICT活用を中心とした講座を設定し、専門職としての高い識見を持ち、専門性を磨くことに加え、豊かな人間性を身に付けるよう教師力の向上と学校力の向上を図る。

また、社会教育と幼児教育各講座においては、今日的課題を明確にしながらか関係機関のニーズに合った講座を開設し、社会教育担当者と幼児教育担当者の資質・能力の向上と実践的な指導力の向上を図る。

(2) 講座内容

本年度の研修事業は新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、次のように実施する。

- ① 学校での公開授業は行わない (但し国語科研修講座は当該校の公開研究会と併せて開催する)
- ② 全ての講座を午後からの半日日程とする (13:00~16:00)
- ③ 外部講師の招聘は管内のみとする (管外の外部講師による研修はオンライン研修とする)

- ① 学校教育講座29, 社会教育講座1, 幼児教育講座1の計31講座とし、不易と流行の両面から研修内容を策定していく。
- ② 実践と授業づくりの講座においては新学習指導要領の趣旨や方向性についてより理解を深め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、今日的教育課題の解明を図るものとする。
- ③ 本年度の研修内容については、昨年度新型コロナウイルス感染症対策のため十分に実施できなかった、次の4点について可能な範囲で実施する。

- 1 演習を取り入れた参加型の研修とする。
- 2 ワークショップ型の研究協議を取り入れ、少人数で充実した交流を図る。
- 3 研究協議の中に小中学校の連携の内容を盛り込む。
- 4 初任段階教員には技術的な指導法とともに、「子供の側に立つ教育の視点」という教育の原点を感じる講座内容とする。

- ④ 具体的な研修講座は次の通りとする。
- 1 学習指導講座は基礎編（授業づくり）と応用編（授業改善）の2講座とし、調査研究との関わりから講師はセンター所員が行う。
 - 2 学級経営講座は基礎編（学級づくりと話し合い活動）と応用編（教育相談と生徒指導の充実）の2講座とする。
 - 3 外国語科・外国語活動研修講座は初級編（基本的な授業づくり）、中級編（実践的クラスルームイングリッシュ）の2講座とする。
 - 4 ものづくり講座及び家庭科講座、図工・美術科講座及び生活科・総合的な学習の時間講座は、隔年での開催とする。（今年度は家庭科講座、図工・美術科講座の開催）
 - 5 ICT活用研修講座は、昨今の教育課題解明と昨年度の受講者のアンケートから初級（基礎研修）と中級（実践力向上研修）に分けて実施し、ミニ道研のプログラミング講座を含めて、3つの講座を設定し、プログラミング教育に対応する。
 - 6 幼保小の連携講座はそれぞれの連携を主眼としながら、受講者はそれぞれの校種から募集を行い、講師も各校種から選定していく。
 - 7 学校と地域をつなぐ社会教育講座は、後志教育局と連携を図りながら、今日的課題を把握し、関係機関のニーズに合った内容にしていく。

(3) 講師

- ① 講師は管内教職員から要請し、教育関係機関団体等や学校等から広く意見を聴き決定する。
- ② 新学習指導要領の趣旨や方向性について理解を深めるため、後志教育局と連携を図る。
- ③ 外部講師の講義は公開講義とし、そのコマだけの聴講を可能とし、受講者に加えて広く教職員や教育関係者に公開をする。

2 調査研究事業

調査研究事業の柱として研修講座と検証授業の連携を図った事業を展開し、教師の授業力向上と学校の校内研究の活性化に寄与する。

(1) 学習指導に関する調査研究（4年次研究の2年目）

- ① 研究主題 『授業力の向上と校内研究の活性化 ～学びに向かう力の育成を通して～』
- ② 研究内容 具体的には研究委員会開催後に決定
- ③ 研究委員会 10回程度予定（検証授業3回）※オンライン等の打合せを積極的に活用

(2) 社会教育に関する調査研究（4年次研究の3年目）

- ① 研究主題 『地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働 ～地域の未来を担う自己肯定感・自己有用感の高い若年層の育成～』
- ② 研究内容 具体的には研究委員会開催後に決定
- ③ 研究委員会 6回程度予定

(3) 調査研究事業報告会

- ① 目的 当センターで行われている調査研究事業が後志管内の教育向上に寄与するため、報告会を通してその成果を管内に広める。
- ② 日時 令和4年1月11日（火）予定
- ③ 会場 後志教育研修センター 第一研修室
- ④ 参加者 管内教職員、社会教育指導者、教育関係者、センター所員
- ⑤ 内容 学習指導・社会教育に関する調査研究事業の概要報告

3 センター事業・・・第54回後志管内教職員研修会（後志教育講演会）の開催

- ① 目的 管内教職員及び地域住民が参加する講演会を実施し、教職員の資質・能力育成と地域住民の教育力の向上を図り、後志教育の一層の充実、発展を目指す。
- ② 期日 令和3年8月3日（火）13:30～15:30
- ③ 会場 ホテル第一会館プラザホール（倶知安町南3条西2丁目） Tel 0136-22-1158
- ④ 講師 高橋義男氏（とまこまい脳神経外科 副院長兼小児脳神経外科部長）
- ⑤ 演題 「渡る世間は嘘ばかり・・・Part 1」
ー 思考停止の世の中で・・・どんどん増える発達障害、ストレス関連障害、認知症・・・
3つ子の魂100までも、地域なくして国ならず!!ー

4 北海道教育研究所連盟研究発表大会（後志大会）の開催ー主管

- ① 目的 主催者である北海道立教育研究所連盟と連携して、第76回北海道教育研究所連盟研究発表大会を開催する。
- ② 期日 令和3年8月26日（木）～8月27日（金）予定
- ③ 会場 倶知安町文化福祉センター（大・中ホール）及び後志教育研修センター（第一研修室）